

# ドクター板東の メデイカルリサーチ Vol.113

～アスリート オリンピックへ 養成中～

<http://pianomed-mr.jp/>



図1

日本体育協会（日体協）は、あらゆるスポーツ競技のサポートやオリンピックのスポーツ文化を長年育ててきた。その中でメジャーなものには、いま話題の桐生祥秀選手の陸上競技や、野球やソフトボール、サッカーなどが含まれる。

一方、マイナースポーツの存在も貴重だ。筆者は長年にわたりアイススケートやインラインスケート競技に関わってきた。

今月は、スケートの大会に加えて、日体協のオリンピックに対するプロジェクト

トなどの話題について、触れてみたい。

## スケート大会

第62回全日本ローラースケートスピード選手権大会が江戸川区水辺のスポーツガーデンで開催された。主催は日本ローラースポーツ連盟（日ロ連）だ。長年本邦における競技力のアップや普及などを進めてきた組織である。

スポーツドクターの私は役員の一員として世話役を



図2

担当するとともに、選手としても競技会に参加している。

筆者の300mダッシュの様子を図1に示す。本大会に備えて、自分なりに練習して臨んだので結果が楽しみ。カーブでうまく力が伝わるようになり、手応え・足応えを感じることに。タイムは34・689秒と自身で進歩がみられた。

300mのタイムは、日本のトップグループ・男子一部選手14名では27・0〜32・4秒であり、私が属する二部では29・3〜36・6秒の範囲だった。なお、タイムの測定は光電管を用いた方法である。



図3

スタートとゴールを靴が通過した瞬間を測定。千分の一秒という僅差の差異で、順位を決定しており、トップクラスのせめぎ合いでは、0・001秒＝1cmの差になることも少なくない。

日ロ連はローラースポーツに関わる各組織のネットワークの中心となり、今後さらなる展開がみられるだろう（図2）。

## 日本体育協会

日体協は年に一度、スポーツドクターの会議を行っている。各都道府県から約50名、日本における各競技団体から約50名が参集してくる（図3）。

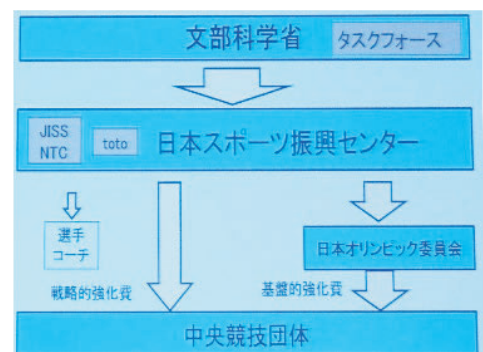


図4

私は、日口連の理事・指定医として今までずっと、皆勤で参加してきた。毎回、素晴らしいレクチャーを受講できるのが楽しみだ。オリンピックや国体、ドーピングなどスポーツに纏わる最新トピックスに触れ、とても意義深い。

まず、文部科学省や日本スポーツ振興センター、中央競技団体などの関係を図3に示した。この中に、日本オリンピック委員会も関与している(図4)。

今後は2020年の東京オリンピック開催に向けた活動が重要となってくる。その中で、将来の予定配置



図5

図を図5に示した。実は、オリンピックに向けた活動も、実際には国体と関わっている。図6を見ると、開催県である長崎↓和歌山↓岩手↓愛媛・福井↓茨城・鹿児島・三重・栃木などと、ステップアップしていく。そして、東京オリンピック開催へとつながるというワケだ。

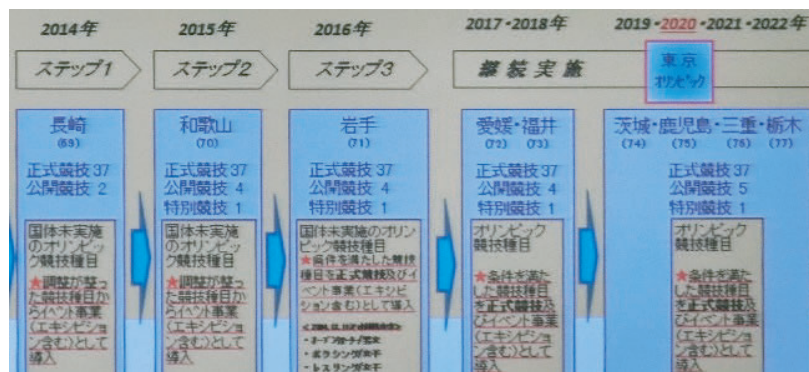


図6

## スポーツドクター

スポーツドクターには①日本体育協会、②日本医師会、③整形外科関連と3種がみられる。中でも、①は誰もが希望すれば取得できるものではない。つまり、申請するまでに、都道府県や中央競技団体における様々な活動を通じて、信頼を得た医師が推薦を受けて受講資格が得られる。

スポーツドクター登録状況を図7に示した。

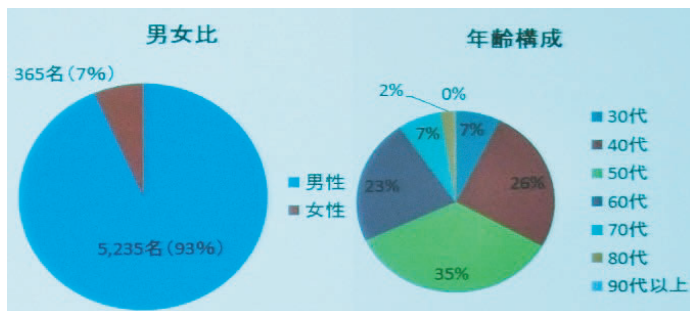


図7

以上のデータから、あまりにも女性が少ない現状が明らかに。そこで、今後の方向性として、女性アスリートのサポートが求められている。最新のトピック



図9

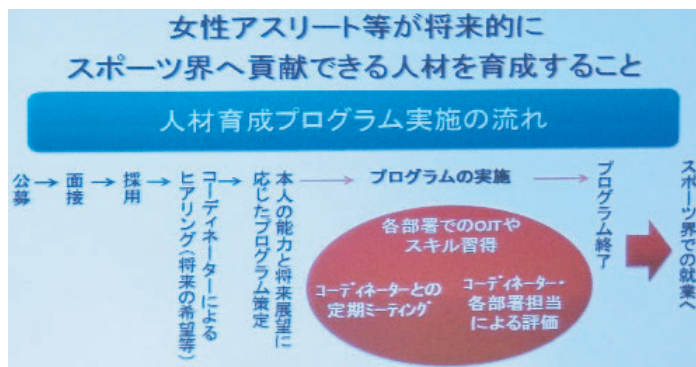


図8

## まとめ

今回紹介した日体協の活動は、会報で発信されてきた(図9)。その中で、日本人のフェアプレイ精神やスポーツ心理学に基づく指導法などが紹介されている。私は徳島県体育協会医科学委員およびスケート部門を担当しており、数年後に徳島から五輪選手の誕生を期待したいと思う。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)